Aug. 30 (Sun.) / 11:55-13:00 / 321

Poster session

To Enhance the Four Skills: The Shift Towards English Education in the Faculty of Foreign Studies, Setsunan University

摂南大学外国語学部における4技能を重視した英語教育へのシフト

吉村 征洋 (摂南大学)
鳥居 祐介 (摂南大学)
住吉 誠 (摂南大学)
後藤 一章 (摂南大学)

昨年、文部科学省は「英語ができる日本人」を育成するために、小中高を中心にグローバル化に対応した英語教育改革の方策を公表した。国が示す教育目標として、高等学校卒業時に、生涯にわたり4技能を積極的に使えるようになる英語力を身につけることを目指す、と目標設定している(文部科学省、2014)。これを受けて、摂南大学でも来年度からの学部改編をきっかけに4技能重視の英語教育を行い、学生の4技能を測るためにオンラインテストの導入に踏み切る。本発表では、摂南大学で行う4技能育成を重視した英語教育の内容およびその成果を明示する。成果については、オンラインテストと質問紙調査の結果による量的研究、および学生へのインタビューによる質的研究の両方の側面から考察する。本学で実施する英語教育改革の大きな柱としては、以下の3つが挙げられる。1) 摂南大学オリジナルテキスト『暗唱英文100選』の導入、2) 英語コア科目へのコーディネータ制導入、3) 4技能が測定可能なオンラインテストの導入、である。英語コア科目(スキルズトレーニング、ポキャブラリー&グラマー、スピーキング&ライティング)では、専任教員が習熟度別のクラス横断型コーディネータとなり、共通のテストを実施するなどして、学生が効果的に4技能を伸ばすための環境を整えた。さらに上記の授業で『暗唱英文100選』を共用し、英語コミュニケーションを行うために必要最低限の英語表現、語彙、文法事項を習得させる。また、学生が授業外で学習/復習できるように、e-Learning環境の充実を図った。スピーキング&ライティングでは、適切なアウトプットができていないかを評価するために、ネイティブ教員が学生一人一人の発話をチェックするシステムを構築した。その上で、ピアソン社のオンラインテスト(プログレス)を導入し、全学生の4技能を測定する。学生の学習面ならびに情意面への影響、およびそこから得られた示唆を報告する。

Aug. 30 (Sun.) / 11:55-13:00 / 321

Poster session

Development of Extensive Reading Teaching Model for Adult Learners of English at Companies as part of a University Outreach Project

大学アウトリーチ活動としての企業内多読教育モデル構築

岡本 清美 (北九州市立大学)
金子恵美子 (会津大学)
ロブ・トーマス (京都産業大学)
辻井 洋行 (北九州市立大学)

企業活動のグローバル化により、大企業だけではなく、中小企業であっても社員の英語力向上に興味を持っているが、地方においては、英語研修を実施するにも経済的な負担だけではなく様々な制約がある。例えば、地理的な制約である。まず、大都市部以外では、企業向けに講師派遣などを行う企業がないとあって差し支えない。また、自家用車での通勤が主なため、いわゆる「駅前留学」も容易ではない。加えて、企業規模が小さいと、英語研修を行うにも、レベル別にクラスを編成する事ができないため、満足のいく研修を行うことは難しい。一方、学校教育を中心に発展してきた英語教育研究分野では、学卒者に対する研究は限られているだけでなく、市販教材等も大学生と学卒者を「成人学習者」として一括りにしていることが多い。しかし、仮に英語検定試験の点数が同じでも、大学生と学卒者では、例えば学習歴